

昭和四年六月二十日招集(才二号)  
第二面市議會定例会會議錄



館山市議会第二回定例会会議録(第二号)

昭和四十年六月招集

六月二十日(月曜日)

一、議事日程(第二号)

第一、議案第四十四号

館山市市税条例の一部を改正する条例の制定と

第二、議案第四十五号

館山市国民健康保険税条例の一部を改正する

条例の制定について

第三、議案第四十六号

館山市水産振興審議会設置条例の制定について

第四、議案第四十七号

館山市学校職員給与条例の一部を改正する条

例の制定について

第五、議案第四十八号

館山市公民館条例の一部を改正する条例の

制定について

第六、議案第四十九号

非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例

の判定について

第七議案第五十号

館山市職員、浪職手当に関する条例を廢止する条例の判定について、

第八議案第五十一号

あらたに生じた土地を市区域内に編入することについて

第九議案第五十二号

館山市清掃条例の一部を改正する条例の判定について

第十議案第五十三号

第十一議案第五十五号

館山市消防委員会設置条例の判定について  
昭和四十年六月に支給する期末手当の特例に関する条例の判定について

第十二議案第五十四号

昭和四十年年度館山市一般会計補正予算

午前十時十七分開議



。議長（黒川佐太郎君）

本日の出席議員数三十二名

これよりオニ回市議会定例会オニ日の会議を開会いたします。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行ないます。

この際申し上げます。本日の議事案件は去る十九日の会議において全部内容説明が終っており、ますので本日はただちに質疑を行ないます。おはかりいたします。

この際執行部よりの申し出により日程の順序を変更し、日程オ十一議案オ五十五号を先議いたしたいと思ひます。

これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（黒川佐太郎君）

異議なしと認めます。よって決定いたしました。  
日程第十一議案第五十五号を議題といたします。  
一〇番（辻田実君）

この件について先般御説明いただいたわけでございますけれども、その中において職員組合と話し合いでもって、円満に解決されたという形で、その線にそって二一という形で提案されたという二とでございますけれどもその点につきましては今回も二条についてでございますが、百分の二十を乗ずるという二とについては、その額の算定基礎になるものは職員組合との交渉の中で出てきたのか、

その点についてお伺いしたいわけでございます。  
最近朝日新聞だとか読売新聞等によつて  
地方自治体の一時金についての論議が報  
道されておりますが、そうした過定について  
知りたいという二とが一つでございます。

二番目に新聞の報道そういうものを総合し  
てみますと非常に館山市がパーセンテージ  
からいっても低いし、さらには絶対額からい  
ても十九市連協の中でも最低に属するの  
ではないかというふうに感じられるわけなんで  
すけれども、そうした点について館山市の  
場合、職員組合と話し合い、そういうものが  
正常な形でもって行なわれたかどうかという  
面について疑問を持たれような懸念<sup>念</sup>もある。

1. 1. 0も批准された今日においていまだ少しその経過について御説明願いたいと思うわけです。  
以上二点

。秘書課長（小倉澄男君）

お答えいたします。職員組合と円満に解決がついたという二点を申し上げましたが、先般十九市連協といたしましては、統一要求という点で二十六割支給という線で一応執行部の方に要求が提出せられました。しかし職員組合としては、二十六割は連協の要求であるが、館山市の職員組合としては、この額を即要求するのではない。しかしそういう点を考慮していただきたいという要求がございまして約三回話し合いをいたしましたし

て、館山市が現在出されるだけの範囲を提出いたしまして、いろいろ説明をいたしました結果、了解を得たというところでございまして、そのときに二割増額するということで円満妥結というところでございます。その席上において二割というものが出て円満妥結した次でございします。

一〇番（辻田実君）

表面的には円満に解決されたといつても、実際的には賃金が低いし、今度の手当におきましても十九市連協の中で最低に属するというふうに感じられる。そうになってみますと、表面的には円満にいつておるようでございしますが、しかしながら職員も人間でございします。

いろいろの面で勤労意欲にさしつかえが出てく

ること懸念される。その点についてどう考え  
るか。

こういうものをきめるのに御説明でございする  
と要求によって所満にいったという二とを答弁して  
おりますが、その間において当局と職員組合との  
間はその正常な話し合いというものが不きにゆか  
められておる懸念がないか。その点について配さ  
れる点があるわけでございまして、それはどうかと  
いう二とを聞いたわけでございますので、その点  
をお答え願いたいと思います。

。助役（小出武男君）

職員組合との折衝の過程、ただいま課長から  
申し上げました通り本年度の夏季手当に  
つきましては、昨年度の自治省の行政指導

の線を踏襲するという基本線をもちまして、徐々に正道に返していこうじゃないか、こういう考え方。はじこの自治体でも持っているわけでございます。本年度の正確な資料はまだととのいませんか、職員組合等の状況を聞きましても、本年度は大体十四割という線が非常に多いということをいっておるんですが、結果的にはわかりませんが、大体新聞等をみましても新市は十四割だという線が出ております。

千葉市あたりにしてもやはり二十割以内に廿止めるといふことでございまして、おそらく今年度の夏季手当は二十割以内に大体止まっておるのではないかと。いろいろな客観的な情勢が今あまわけてございまして、市といたしましても最初は一六

市の助役会議において打ち合わせました。新結  
果はとりあえず十四割という線でいくのかとい  
んではないかという線を出したわけでございま  
すが、過去の実績というものがありますので、こ  
の線が正しいものかどうかということは別と  
しまして一応既成事実として前回出してあり  
ますのでその線を執行部としては保持して  
やろうじゃないか、こういう一つのア持がござい  
まして、これを元にして職員組合と交渉しまし  
た結果、職員組合におさましてもいろいろの  
客観情勢を観察した結果と思ひますが、非  
常に二の点はスムーズにましましまして、この線  
で結構だという線が出たわけでございまして  
私どもとしても別にこれを無理に押しつけた



ということとは全然ございません。結果はまだ出ま  
せんが、おそらく私どもの推定では本年度は大体二十  
割以内でございでもおさまるのではないかと、特殊な  
財政の豊かな自治体は別としてしましても、その線  
でおさめるのではないかとというふうに考えます。  
なお昨年度の例をみましても交付団体あたりでは  
規定以上出したところは不用額として特交にお  
きまして、操作をしておる。こういうこともありま  
すので、私ども行政をあずかっておるものとした  
しましてはだんだん正常な姿に返していく。そのた  
めには基本になる給料あるいは賃金こういう  
ものについて正しい姿に徐々に持っていくという  
ことかまずその前提をなす、こういうふうな考え  
方におきまして正しい姿に持っていく。こういう

気持を前提として操作をしておるわけでございます。

○の番（辻田実君）

御趣旨はよくわかりました。私は職員組合と当局を対立させようという気は毛頭ございませんが、ただいまの答弁では大きな錯覚をしております。ような気がするわけでございます。けれども、新聞でみますと現在五つの市が十九割から二十割要結しておるということでございます。千葉、船橋、市川、松戸これは十九割から二十割で要結しております。

茂原は十七・五という回答があつたわけでございます。要結したところが十七・五で一番低い。

十四割で回答を出された各地方自治体におきま

してはほとんどが拒否して自治省のいう通りに条例通り支給という二ことならばわれわれ職員組合といたしましても条例通り残業しかない。場合によつては参議院選挙等についても残業そういうものについてもやはり法令通りやる。

協定ができない場合にはこれも拒否も辞さないという形でもって申し入れをすゝとかしたとかいう形で県の方にそういう強い要望がいつておる。

県当局といたしましてもそれについては、一時金と参議院選挙についてはたゞいま別問題だろうという二とでやっております。

ただいまの助役さんの答弁でございますと大体十四割で全部妥結したというようなことをいわれておりますが、妥結したのは十七・五が最

低だ。妥結していないところかほとんど強硬に出て  
ある。順法闘争をやるといふことが出ております。

私が心配するのはほかの市町村でもって大幅に支  
給された場合に館山市だけ取り残された場合に  
不満が出てくる。

その場合何かの手当という不明瞭の支給という  
ことでやられると市の人事管理という面が不明  
瞭になる気がするわけでございますけれども  
そういう点については今回このように早急に  
出された面についてそういう事態が生じた場合  
調整するのかが、館山市が最低であっても職員  
組合との正常な話し合いでもってきめられた  
からそれでやっていくのか、その二つを聞きて  
質問を打ち切りたいと思います。

・助役（小出武男君）

非常に御同情ある御質問でございますが、申し上げました通り予算の手当は一応市会できめてありますので、これが一つの基準になることは当然で私も職員組合と話しているときに市会できめてあるのだからその都度折衝の対象にしていることはいづれ体がおかしいのだから、早く正常な姿に返そうではないかということなのであります。市会できめてあるのが正しいのであつてそれから上げるのならば条例を改正してやるべきであつて市会がきめない前に職員組合とだけ率をきめていくということかすでにかかっているのであつて、本当に正常な姿であるならば条例通りにいくのが正しいのだ。その前提となるのは俸給が正しい姿になつていけばいいのである。

ります。が、そこにある職員組合のいう給料が低い  
 いろいろなことがいわれるために何だかわからない  
 アルファのものを加えて一つの調整をしておる  
 というのが今の段階でございまして本年、度あた  
 りをみましても先ほども申しますように大体各  
 自治体が非常に給与の面で逼迫をしておるとい  
 うのは事実でございまして給与も昨年度に調  
 整をいたしました、平均ペース二万六千円が三万円近  
 くに昨年から上昇してきております。こういうこ  
 とで常時職員の給与ベース改定の面を考えてお  
 るのでございまして、これらが正常な姿になるのを  
 待っております。早くしたい。こういうことでございま  
 す。それから超勤の操作を例年によつてこれにプ  
 ラスしてございます。

従つてこれを全部総合しますれば茂原位になるわけでございますので職員組合は満足でないかもしれないが、一応今年はこれで結構だという線で行満に妥結しておりまゝすので御心配ないと思います。

。二三番（中村省吾君）

ただいまの質疑の中で関連事項でございませうが、質疑の中でお話しがございましたように職員組合との話し合い、当局との話し合い、いわゆる団体交渉に関する問題が出てゐるわけでございます。

従来私もが職員組合のあり方、あるいは職員組合に対する市理事者側との関連を考えたときに必ずしも正常なものという二つではなかつたと思います。何か此二にあつたような気がしておつた。そのことがたまたま期末手当の今回の交

渉の中に何かがある。そういうことを感じられる。そこでその問題はいろいろ御答弁がございしましたことば了解いたすわけですが、関連したしまして今回以上の八十七号条約が批准されました。そこで八十七号条約が批准された今回におきまして当然市当局として今度の職員組合との話し合い、いわゆる団体交渉に関する問題を真剣に考えなければならぬと思います。

当然政府において地方公務員法の五条でございますか、国公法の四条です。そういうものの改正も当然なされなければならぬ。その点において自治省からの指示もございしましょう。

従ってその何かの指示があるまでというお考えだ。ううと思ひますが、しかし二ういった話し合い



そのものは当然職場職場の中で解決しなければならぬ精神的条項が多分にございます。

従つてこのILO八十七号条約が批准された今後における労使間の問題、これに対するお考え、準備その他をどのようにお考えになつておるか、なつとお聞きしたいと思います。

。助役（小出武男君）

ILOの問題でございますが、この点につきましては、労使間の円滑な運営をはかるための協定でござりますので、理事者としてはこの条約の精神を生かしまして職員組合とその円満な折衝をしていくということにつきましては、十分今後において考えなければならぬということとは当然でござい  
ます。なお細かいことはまだわかりませんが、いろいろ

準備的なパンフレットというものは配布を受けて  
おりますが、まだ勉強が足りませんが、要は今申し  
ましたような趣旨における協定でございますので  
これらが円滑に運営されること自体が精神を生  
かすことになると思いますのでこの点につきまし  
ては十分今後勉強して運営に万全を期していき  
たいという気持を持っておりますことを申し上げて  
おきます。

議長（黒川佐太郎君）

おはわりいたします。

本案に対する質疑はこれにて打ち切り討論省略  
原案通り可決するに御異議ありませんか。

（異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（黒川佐太郎君）

異議なしと認めます。よつて本案は原案通り決しました。

日程才一議案才四十四号を上程いたします。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

。議長(黒川佐太郎君)

おはかりいたします。本案に對する質疑はこれにて打ち切り討論省略原案通り可決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

。議長(黒川佐太郎君)

異議なしと認めます。よつて本案は原案通り決しました。

日程才二議案才四十五号を上程いたします。

。二三番(君塚喜三君)

最高賦課額四万円を五万円にするということでご  
ざいますか、いわゆる所得税割額、資産割額、均  
等割額、平等割額、この各算額が四万円を減えた  
場合に今までは四万円打ち切られたわけですが、  
今回五万円になるということでございしますが、こ  
のことに於いて四十年度におりてどの位の収入増に  
なるか、もつともそのあとの十二条において軽減の  
範囲の拡大がございますので、この面の相殺  
もあろうかと思ひますが、どの位収入増にな  
るか、お答えをいたしたいと思います。

保健衛生課長（池田競山君）

四十年度の本条例改正をいたしましたので、収入増  
ということでございますか、また賦課の段階で  
ございまして、調査中でございまして、額の把

握か現在の段階では困難でございます。

参考まで申し上げますが、四万円を越えた三十九年度の世帯数でございます。それが五十一世帯でございます。そうしますとこれを五万円にしたとき四十年度五万円を越える世帯が大体私どもの推定では六十世帯位になる。

額におきましては一万円の間の額はまちまちでございますので、はつきりしたことはお答えできません。いことは残念でございます。

一六番（関 武夫君）

今の問題ですが、法令で最高の五万ということとはきめられておりますのでやむを得ないことなんです。本年年度の保険税は平均で約五割上るわけでございます。仮りに三万円締めてお

つた人は四万五千円になり四万円締めた人が五万円という二ことになりますと上に薄く下に厚いという結果が出るわけなんです。が、保険財政の急変と申しますが、したわけに近い将来最高限度に関する地方税法かわる見込みがあるかどうか、その点をお伺いしたいと思います。それとかわった場合六万とか七万とかなると思いますが、そういうときに市としてどういうお考えでおられるか、お伺いしたいと思います。

。保健衛生課長（池田亮山君）

確かに御指摘の通りこれは上に減く下に重くという二ことでございます。今お話しに出ましたように、地方税法で現在規定されておりますものは最高五万円という二ことでございますので、これ

を準用しているわけでございます。

将来において地方税法が改正された場合でございますが、現在厚生省におきまして標準税率そういったものの検討を加えつつあるということを聞いておるわけでございます。

現在行なわれております保険税は各市町村とも法律に規定された範囲内で所得額によって賦課されておるわけでございます。

全国的にみますとまちまちでございます。これを全国的な標準税率に改める必要があるという二つで昭和四十一年度を基本として改正の必要があるという二つを聞いておるわけでございます。果たしてその年度にできるかどうかはわかりませんが、そのときに私どもとして考えますのは

市町村の受診率その他給付に関する経費がお  
 のおの違うわけでございます。そこで標準脱率  
 というものが成り立つか、疑問を持つわけでは  
 ございます。

この点も厚生省ではどのような方法でやるか、  
 目下研究中という二とでございます。これが出  
 たときに改めて考えていく必要があると思ひます。

・議長（黒川佐太郎君）

おはかりいたします。

本案に対する質疑はこれにて打ち切り、討論  
 省略原案通り可決するに御異議ありませんか

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

・議長（黒川佐太郎君）

異議なしと氣めます。よって本案は原案通り可



決されました。

日程才三、議案才四十六号を上程いたします。

・一八番（西村真次君）

この条例は地方自治法の百三十八条の四才三項の規定によって提案された。こういうことでありますが、この自治法の規定によつては確か昭和二十七年の七月に改正されて初めて追加になつた条文ではないかと思ふんですが、それ以来今日まで十三年余を経過しております。この間に必要と認められていなかった。この審議会が今日突然制定の必要を生じた。こういう点につきましては何かさし当つて必要のある事態が生じているかどうか、この点につつてお伺いしたいと思います。

・農林水産課長（伊藤幸太郎君）

お答え申し上げます。御質問の必要云々の問題でございすか、その意味におきますと二つの必要だという二とは特別ございせん。

ただこの審議会設置につきましては、過去二三年来の水産業関係者からの非常に強い要望もあつたところでございすし、また現在おかれております水産業関係の仕事といたしまして漁港整備の問題あるいは漁業構造改善の問題特に新たに最近出て参つたところの漁業協同組合の統合整備の問題、そういった問題が現在出ておりますので年来の御要望にこたえなおまた時代に即応して下さるだけ広範囲の方たちの御意見も聴取してやつて参りたいという二とでこの審議会を設けるべく条例を作りまして一応御審

議いたたくわけでございます。

さような意味でございますので御了承願います。

・一八番（西村真次君）

ただいまの御説明でよく了解いたしました。

これはあとに出て参ります議案五十三号にも関係あるわけでござりますが、同じ二とがいえると思ひますが、審議会の設置という二とは結構でありますけれども、その後における審議会なり委員会の運用というか、活用というか、そういうものがとかく等閑にふされがちな気がするわけがあります。せつかく議会の同意を得まして、二二という条例を制定する以上はなるべくこれを機会あることに活用してもらいたい。二二に考えるわけがあります。現在他の審議会においても最近一度も開かれたこと

かないというようなことも聞いておるわけですが、  
か、こういう二つのないようにしていただくとい  
思うわけがあります。

この辺についてそのお考えを承わりたいと思います。

・農林水産課長（伊藤幸太郎君）

ただいまのお話しの通り一応審議会を持ちました場  
合はできるだけ審議会のみなさん方に重要な問題  
あるいは緊急の問題すべてひきただけおはかりい  
たしまして審議会を置きました意味を十分今後  
生かしていきたいというような気持ちでありますので  
よろしくお願いいたします。

・一番（辻田実君）

若干関連するわけですが、ただいまの御答弁です  
と特に調査をする事項というものはないけれども

全般的な二、三年來の要望でもってということをお願い  
ておりましたが、その点についてもう少し細かく知り  
たいわけでございます。

まず第一点として又二条でございますが、「市長の諮  
問に及び必要な調査並びに審議をすまふ」ということ  
になつてゐる。この点について各支そのものは了解  
ひきるわけでございますけれども六条と関連い  
たしまして委任事項ということでもつてどの程度  
の性格のものを委任すまふ、委任の範圍という  
ものにつりてくわしく御説明願ひたいと思ひます。

又五条でございますけれどもほかの市の条例の審議  
会の会議というのは市が招集するような形になつて  
あるわけでございますけれどもこの審議会の条例  
によりまするとあとに出てくる五十三号もそうでこ

ございますけれども、委員長が招集する事になります。ある、委員という事になりますと、才三条の二項に基くと、三つの層から出てくる互選によって、委員長は選ばれる。

ここに、市長の諮問にたいし、ということになっております。すけれども、この条文でいきますと、委員長が場合によると、単独で開いて、そうして、会議を進められるというふうにも解釈できます。

そういう点については、消防条例にして、観光審議会、の条例にして、市の執行機関が招集して諮問をするという条文になってあるわけではございません。水産振興審議会、の設置条例につきましては、かなり従来の審議会等とかわっており、その点については、以上三点について御質問したいわけではございません。

・農林水産課長（伊藤幸太郎君）

お答へ申し上げます。才六条におきます委任という意味でございますけれどもこの条文は才二条の関連という意味でございまして、あくまでも施行規則的な条例でございまして、その他の問題を市長が別に必要があれば定めていくのだという二つでございます。

才二番目の問題でございしますが審議会の招集は御指摘の通り会長が招集するのだ。そうして議長になるのだというわけでございます。

諮問機関の性格上、必要な事項につきまして市長が審議会に付しまして諮問を發します。諮問を發せられました審議会は必要なときに会議を会長が招集いたしました。諮問に対する答弁申を審議します。

して市長に答申をなさうという形にならうかと思ひますので、あえて市長が招集なさうという二とでなくとも別にさしつかえない。むしろ二の形の方がよいといんではないかというふうに考えられでございまして他の設置条例等につきましても全部目を通しておりませんけれどもこれと同じような形のものもあるのではないかとこのように考へておるわけでございます。ましてそのように解釈しておるわけでございます。

一〇番（江田 実君）

要するに審議会の必要な調査というものがあつた程度あると思ひますが、そういうものについてお伺ひしたいわけなんですけれども、水産業一般という二とをいわれておりましたか、全体という二とで解釈されておるのか、先ほど西村議員がいわれたように市長が諮問



していくからには諮問事項という必要があるのではないか非常にあいまいのような気がするのでお答え願いたい。

林済六条の問題について運営という二点をいわれますが、運営の範囲という点と細くなりますが、審議会で定まったものかそれとも審議会そのものの運営なのか、その点について審議会の運営そのものになってくるとこのままの形でもって事務局の存在というものを明記していかないと問題が出てくる。従つて単に会議の形態というものかどうな運営だけに限るのか、二つだけ再質問したいと思つます。

・農林水産課長（伊藤幸太郎君）

先ほど申し上げました当面具體的な必要に迫られましたとして云々というような意味の答弁を申し上げます。

したが具体的に申しますとこういう問題があるの  
でその問題について必要があつて審議会を設けるの  
だという意味ではないということを申し上げたわけ  
でございます。つまり水産業振興上必要があつたと  
思われまゝいろいろな事項につきまして市長が  
この審議会の意見を徴するために諮問機関とし  
て設けたい、でありますので抽象的であります  
けれども水産業全般についての問題についてござ  
るだけこの審議会の意見を徴取していただきたい。こうい  
うようなことばで考えておるわけでございます。それか  
ら委任の問題でございますけれども、これは委員  
会の権限に属する委任ということはございませんの  
であくまでも委員会、会議その他について委員会自体の  
問題として考えておるのだということばでございます。

一〇番（辻田 実君）

もう一つお尋ねいたしたんですが、三条の二項、三項の漁業団体代表者四人、学識経験者二名という二とでございしますが、漁業団体代表者四名という二とを予けた根拠、学識経験者二名という二とに、ついで学識経験者というのはいの程度想定してゐるのか、その点についてお伺いしたい。

この地域に大学とかそういう専門的な学者というものは少い。学識経験者の中に漁業会の組合長、さらに直接それにたずさわりそれを実施してあるという人が非常に多く入つてきてある。

その点については観光審議会においても同様でございしますが、社会教育においても実際に実施機関の人たち、そのものが入つてある。

今までの条例の中に学識経験者が利益代表者としての兼務してある人も、そういう人を公然とそれとしておるといふことがあるわけではございますが、この点について学識経験者というのは今度の場合もそういうふうにしていくのか、水産試験所の所長とか純粹な学者というものを想定しておるのか、現在漁業に従事しておる漁業そのものに直接利害が関係する。今回の場合はそういうものも含んでいくか、少しくわしくお伺いしたい。

・農林水産課長（伊藤幸太郎君）

漁業団体代表者という二とでございしますが、現在漁業団体というところあるわけではございますが、例えば漁業協同組合さらに漁業調整委員会というような一つの法的な問題でございしますが、そう

いう団体的なものもあるうと存じます。あるいは水産加工業関係の団体という二とも考えられると思います。そういった意味合いで考えてはありますけれども、これはあくまでも市長の委嘱でございますけれども、具体的にどのような方という二とは今のところきまっておりません。

次の学識経験者でございますけれども、今お話しの出ました通り水産試験所長あるいは水産事務所というような行政的、技術的な指導機関もある二とでございますのでそれらの方も学識経験者に含まれてさしつかえない方だと思えます。

今そういう方たちを委嘱するのだと云々ということば申し上げるわけではございせんがそのように考えていただきたいと思います。

○一番（辻田 実君）

その点につきまして簡単に市長さんにお尋ねいたしたい。

漁業団体代表者四人ということについて市長さんの考えで選ばられるということでございますが、この点について市長さんは地域的に選ばれる予定なのか、それとも一つの階層的に選ぶ予定なのかその点をまずお聞きいたしたいと思えます。

○市長（本間 謙 君）

これは地域的にやった方がいいと考えますけれどもいろいろ研究しましてなるべく選定當にしようにいたしたい。

○一番（辻田 実君）

地域的ということになりますると非常に大きい中で

四人ということでは根柢が薄弱だと思ふ。

階層的に選ぶという考えはないわけですが、二  
の中で考えていく余地というものは……

・市長（本間 譲君）

まだよく研究しておりませんからよく研究します。

・一番（吉田勇治郎君）

学識経験者選定についてお伺いしますが、ただいま  
いろいろ御答弁があったようでございますが、私、考え  
るところによりますと、ただいま農業センサスが出て  
おりますが、非常に学者的なセンサスでございまし  
てもう少しこれが実態に合うような地域を完全  
に把握しておるような方々が作っておるならば、実感の  
あるセンサスがひき上がるが、私の方など書くところか  
ない。実感ひびきます。従いまして、鶴山市長い

海岸線を持つておりまして地域環境が違っております。漁業形態も違ふというときにおきまして大学を志出たり水産試験所の精子に生つてゐるものか学識経験者という扱ひを受けますと非常に実態にそわないものが出てくるのではないだろつかと思ひます。中にそういうものも当然加味されることか必要ではございますか、やはり地域は地域に生きた学者的存在にまさるとも劣らない人がおりますから今後入選によつてはかようなものも入れていただけるかその点御答弁いただきたいと思ひます。

○農林水産課長（伊藤幸太郎君）

御意見のとおり、私の先ほど申し上げましたのはそういうただ方たちも学識経験者としてあくま



ひもさしつかえない方たちだということでもございまして  
必ずしもその方を考えているのだという意味で申し  
上げたのはございませう。今お話しの際は確かに  
市独自の審議会でもございますのでそういった面は  
十分生かされることか大切だと考えますので市長  
とも考えてやっていたと思います。

#### 二四番（島野茂樹郎君）

水産業の振興に関連をいたしまして御質問いた  
したと思えます。

私の質問は特に水産業の振興ということだけい  
はなく、私も市民の生活あるいは商工業その他  
社会全般に関する問題になりますけれども水産業  
農業、商工業というものと切っても切れない関係に  
ある電話に於て市長のお考えをお聞きしたいと思ひます。

このように水産振興審議会というような設置を創か  
 出まして、水産業の振興についでこれからいろいろな施  
 策を講じていくということになるわけがありますか、  
 その場合にやはり志望もは電話の問題についていま  
 一度対策の中に入れていかなければならないのでは  
 ないか。今御承知のように館山の電話局では改式  
 工事を開始しております。

邦古船形と九重が合併になって遠からず自動式にな  
 るということも聞っておりますけれども、本良と西  
 岬につきましてはそういう話しを聞きません。

話しがないということは今のままの古い方式に放  
 置されるのではないか、こういうことでございます。

市長さんは観光の面々について、非常に力を  
 入れている。しかも観光の中心が鏡ヶ浦であり平砂

浦であるということもいわれております。西岬の国民  
休暇村は一つの中心になりますし、さらに有料道路  
ができますし、平砂浦から布良ノースホステルの間、  
布良海岸これが重要な地域になるということもい  
われておりますが、この地域の電話が古い方式のま  
ま放置されて館山市の振興のために果たしていい  
ことかというか、もちろん電話というのは電話加入者  
だけが利用するということになりますので現在のと  
ころ西岬地区、富崎地区におきまして電話の加入  
者は市住民の中では多いとはいいませんが、しかしこ  
れがその地域の発展なり市の振興計画という  
ものとの関連ということは非常に大きなものがあ  
ると思います。従いまして、市長はこの地域の電話  
を自動式に自営をしていくということを公社に

要求をしていく、そういうお考えがないかどうか  
 ということが一つ、それからもう一つは電話に加入地  
 域というのがございます。普通加入地域と特別加入地  
 域、この両方に属しない区域外というのがござい  
 ます。一般的に言えば人口の密集したところその  
 回りに特別加入区域があり、へんぴなところは区域  
 外というところに考えていいと思ひますが、引くところ  
 に特別に負担をしなければならぬという地域  
 があります。月々使用料を多く取られる。こういう  
 ようなところではございます。

現在のところではいますとせつかく市の工場誘致  
 施策と申しますか、そういうようなことでござい、こ  
 れが特別加入区域のために電話を引くのに多額の  
 費用を要する。そういうようなことも一つの例と

してあります。そこで市の発展計画といいますが、それを立案するに當つて將來この地域は工場を立てるのだ。こゝういふ施設を作るのだ。だからこゝは普通加入地域にしてもらわなければならない。そういうことを市としてやはり研究をして、そうして公社に要望していく必要のあるのではないかと、いうふうに考えます。その点につて考究並に公社に對して要望なさるつもりが、ないか、どうか、二つ。

もう一つは、これはサービスの面の問題ですが、御承知のように四月の下冊面におきまして、賃金紛争と相まつて少しこたつたいたしました。その結果がストライキに参加したものはいろいろ処分という形で処分を受けたわけであり、まするけれども、これは組合にいわせればそれむれいい分もあるし、公社

にもそれだけの理申があるわけでありましたが、実態を申し上げますとその二とによって職員への勤労意欲といえますか、そういうものが公社の仕事について今までは全面的な協力をしてきたわけでありましたが、これもこれを得られないというような事態になつておるわけがあります。

従いましてこの事態が続きますとせつかくの改式の時期というようなものも遅延させられる。そういう憂いがあるわけでありましてサービスの面についても非常にわるい影響が出るのではないかという二とが心配されるわけがあります。

市長は市の理事者でございます。地域代表という立場にもあるわけでございますので、この面について善知をすまうように行動していただきたいというふ

うに考えるんですが、そのつもりがあるかどうか電話が非常に市の発展といいますか、長期計画の面においても重要な問題であるし、これを考えないで立てた立案というものはやはりどこか一本くぎが抜けたということになろうかと思ひますのであえて質問申し上げた次第です。以上三点について市長のお考えをお聞かせ願ひたい。

・市長（本間 康 君）

電話の問題につきましては島野さんが専門家でございましてよくおわかりのことと思ひます。

同じ行政区内におきまして電話が幾口もあるということは電話という本来のものからしましてこういうことはあり得るべきことではないと私は考えておるわけでございまして自動式になるにつぎまして

もいろいろ局長さんにも意見を申し上げて参ったのであります。が、機械やなんかの関係でまずいということとで考えておりました。しかし、どうしてもやはり館山市における電話は館山電話でいかなければならないと思ひまして、今後それにつきましてもむしろ島野さんの御意見、御指導よりましてもやっつけていきたいと思います。

区域外の電話のことにつきましてもこれもやはり同じ電話を引くのだから短いところはたくさんかかる、遠いところはたくさん経費がかかる、でしょうし、これをプール計算的にやれば一番いいと思ひますけれども私は専門的なことはわかりません。が、やはりそういうことでお願いしてみたいと考へております。



それからこの間のストライキに対しての知分の方々は  
お気の毒でございますけれども、私がこれをどう  
こうということも早急な回答もできませんけれども  
よく考えてみたいと思います。

・七番（田村源治郎君）

漁業団体内人といいますが、果たしてこれで審議  
ができるかどうか、人員が少いと思うけれども六名  
位にしたらどうか、形式ばかりの審議になるのでは  
ないか、この点意見を述べていただきたい。

・農林水産課長（伊藤幸太郎君）

四人の数が少いだろう、多いだろうということでは  
いいますが、なかなか八人にしなければならぬとい  
う考え方があるかもしれません。ただし私としまし  
ては、この考え方に基きまして、この審議会を作らして

また将来にいきましても二のような方たちもぜひ参加することかよろしいという二とでござい  
ますけれども、その際に御相談して参りたい。  
このように考えております。

・七番（田村源治郎君）

四人といいますが四人でやるといふとすうはつきりした答  
弁かない。

六人というのは海岸線を館山は六カ所地域を持つてお  
る。その中の調整がなければならぬ。

いかげんの審議会を作つていいのか、意の通るような  
人員を配置して初めて審議かできる。

四人はでたらめの四人だ。そこから選ぶのだ。

学者でできるなら漁業をやってみなさい。学者に  
は漁業はできない。学者は机の上の理論だ。

学識経験者というのは回わりにきいてもらってわれわれに補足すべき以外にない。

漠然とした答弁はやってもういたくない。四人は大人に訂正してもらいたい。そうでなければ四人はどいから選ぶのだ。あついはどいこの地区というはつきりしたものをお答えいた  
だきたい。

・農林水産課長（伊藤 幸太郎 君）

私も申し上げましたのは先ほども申し上げました通り  
四人という範囲出ているだけだきれいともます範囲という  
ものは具体的に考えておりません。

ただお話しに出ましたことは十分考慮していいこと  
だと思ひますが、今お話しを通りの地域的な面から  
一人ずつ出てもらうのだということは考えておりません  
でありますので、四人の数が今お話しを通りのこと

から参りますと考えられる点があるうと思ひます。お話しのようなことだけで二人の人は考えたくないうという二とで四人の数字をお願いしてあるわけでございますので、将来二のような問題が出ますした場合にまたみなさん方にお願ひして御相談したい。とりあえず私としましては、条例案の通り審議会の発足を考へていきたい。こういう二とで考へております。

・七番 (田村源治郎君)

ここに書いてありますように漁業団体代表者それ以外のものは含まれてないとはつきり書いてある。その中から選ぶ、そのように書いてあるではありませんか。あるならでき上っているんじゃないか漠然とした答弁はやめてください。

もう一回四人という二とを説明していただきたい。

・議長（黒川佐太郎君）

暫時休憩いたします。

午前十一時三十分

休憩

午後一時二十分

再開

・議長（黒川佐太郎君）

午後の出席議員数

三十名

休憩前に引き続き会議を開きます。

先ほどの七番議員の質疑に対する答弁を求めます。

・農林水産課長（伊藤幸太郎君）

午前中の田村議員さんにつきましての御答弁申し上げます。

いろいろ御意見を承りましたが、二の審議会の委員の人選につきましては、いろいろ御意見の通り十分慎重にまた議員さんの御趣旨にそうべく慎重な人選をいたしまして、委員会の運営をやつて参りたいというふうに考えておりますのでよろしく御了承いただきたいと思います。

・七番（田村 源治郎君）

よくわかりました。お願いします。

・議長（黒川 佐太郎君）

御質疑ないようでございますので本案に対する質疑はこれにて打ち切り討論省略原案通り可決するに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

・議長（黒川 佐太郎君）

日程第四議案第四十七号を上程いたします。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)

御質疑なしと認めます。

本案に対する質疑はこれにて打ち切り討論省略原案通り可決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)

異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決されました。

日程第六議案第四十八号を上程いたします。

二番(石井正君)

二点についてお伺いいたします。

まず分館がなぜ必要であるか、すなわち改正の根拠につ

いてお伺いしたい。

※次にこの改正までの経過についてくわしく御説明  
願いたい。以上二点について

・社会教育課長（利田 正男君）

御説明申し上げます。

まず第一点の改正の根拠でございますが、社会教育の  
場といたしまして地域を考えますときに行政的に  
十地区考えられております。

十地区の中で七分館だけできておりまして、七分館の  
一つは郡古船形という不規則な形でできております。  
ほかに市街地である七条、館山には分館というものが  
なかったわけでございます。これに關しまして公民館  
が分館というものが無い場合には公民館運動の地  
区的な拠点というもの、そういう考え方が希薄に



なるので自然活動が活発でないという状態でございます。  
それでこれを邦古船形分館を分けまして、従前のものは  
邦古船分館にいたしましたして、別に船形分館を設けて  
社会教育の拠点たらしめたいという考え方でございます。  
館山にもございませんで、館山小学校の一部分を拝借  
いたしましたして、拠点を設けまして、北条分館に關しまして  
は、本館がございますが、本館そのものは中央にござい  
まして、連絡調整に當る形を取りましたが、北条地区  
に対する公民館運動と申しますか、そうしたものの  
拠点が十分でございませんで施設としては本館に  
おきまするが、分館の活動を活発にしていきたい。  
こゝういう考えで改正をお願いした次才ひござい  
ます。

なお経緯につきましては前回の三月十九日の議会

において三沢議員さんからの御質問もございまして、社会教育委員会においても従前今申し上げたような船形、北条、那古地区に副館長という役職を置きましてそうしてこれを分館長並みの機関としての機能を働いてもらうように三人置いてあったのであります。必ずしも職分かはさりたいしませんために、社会教育委員会からなるべく早く分館を設置するようにという答申があったわけでございます。

それに対して三月十九日の議会で三沢議員から出張所が公民館になるに際してこれに付帯しての御意見はそれぞれ置くようにという御忠告いただきましたのでその際、こうしたことの上程いたしたいと申し上げたい次第でございます。

それがようやく教育委員会の議決にもなりましたので、今  
回みなさん方の議決をちょうだいする、こういう経緯で  
ございます。

・二番（石井正君）

さらに一昨日の説明の中に館山、那古、船形小学校の  
（部をお借りする。こういうお話して支障がないとい  
うお話してあったけれども、支障がないということ  
は学校が授業をしているときには使わない。それ以  
外の日に使用するという意味に解釈していいかど  
うか。

・社会教育課長（利田正男君）

お答え申し上げます。当然、そのように考えております。  
それからもう一つ従前から分館を設置された場  
合には当該学校の校長先生に副分館長を委嘱した

しますし、教頭先生に主事さん、書記さんをお願いして  
ておりますので、そうした形を今後も取りたいと思ひ  
ますので、特にそういう点は連絡を密にして、学校教  
育を阻害することがないように、その範囲内の社会  
教育活動をいたしたい。こう考えております。

○二番（石井正君）

さらに関連いたしますけれども、学校を使用するとい  
うことになるとたとえ休日でありましても、日直の  
職員あるいは今申しますように、校長が副分館長と  
いうことになるかと、校長に負担がかかってくる。

さらにはPTA会費云々の問題で、やはり学校を使  
いますれば費用につぎましては、もちろん公民館関  
係の費用から出ましようが、裁縫室なり一教室を  
使いますれば、その破損等いろいろ問題が生ずる。

そういうものの費用というようなもの、そういうものも支障の中に入るんじゃないかと私は考えますが、まずその学校側に対して経済的な負担というものが設置されたためにかかるとはならないか、こういう見方をしているわけでありますが、その点いかにお考えか、お答え願います。

・社会教育課長（利田正男君）

お答えいたします。年額二十円と十円という手当をさし上げる二とになっておりますが、仕事は結局活動関係に對しまして従前も非常に御協力いたたいてありますので分館を設置されたからといってそれに對して大きな労力がかかるといふ二とは従前の経緯から考えられません。

破損等、これに對しては従前社会教育の行事の

あるごとに拝借させていただいておるような形で、現実に分館が設置されてもその程度にしか使用させていただきませんので、機関の拠点という二とが大きいわけでございまして、破損という二とは考えておりません。これは決して正式の形でございせんので、財政が許されるならば十分スポーツ等もできるような立派な分館を設置していただきたいと思ひますし、その方に私どもも努力しておるわけであります。

・二一番（石井正君）

内容を御説明いただきましてわかりましたが、最後に要望申し上げます。ただいま申し上げましたように学校なりあるいは職員に正式の形でないという了解のもとに負担をかけないようになさるべく、日も早く正式な分館の設置を要望いたしまして質問を打ち切ります。

・議長（黒川佐太郎君）

おはかりいたします。

本案に対する質疑はこれにて打ち切り、討論省略、原案通り可決するに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

・議長（黒川佐太郎君）

異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決されました。日程才六議案才四十九号を上程いたします。

一〇番（辻田実君）

ちょっとお尋ねいたしますが、青少年問題協議会の委員の報酬が七百円になさるゝわけをわけてございしますが、この根拠を細かくお知らせ願いたいと思います。

・福祉事務所長（鴉沢貫覚君）

お答えいたします。青少年問題協議会は昨年の議

会におきまして議決いただきまして近く委員を委  
嘱する予定になつておりますが会議に出られます。  
一日の費用弁償という根拠で七百円、日額手当て  
ういう意味で計上してあるわけであります。

○番（辻田、実君）

そこでお尋ねいたしたいわけでございしますけれども  
青少年問題協議会の委員の顔ぶれるみますると  
条例ではつきりと第三条の四項に基きまして十五項  
目に分かれまして委員が出てあるわけでございします。  
その中の大半の人が行政方の長、そういう方たちで  
あるわけでしてそこに手当を出すということはどう  
かという面が一つ、それから婦人団体の代表、青年  
団の会長、PTAの会長とか、こういう人たちに対  
してはほとんど他の社会教育団体の社会教育委



員だとか公民館運営委員長に自動的になっている。

そういう兼職をしないで市の他の条例とからみ合つて  
ほとんど問題のないという人は児童委員、保護司と  
いうことは無償でやるというところがたてまえになつて  
ありましてこれらを除いたほとんどの方が市の報酬  
をもらつてゐる。二ついうことを考へて計算してみ  
ますと社会教育等につまましては年額三千三百円、  
さらには体育指導員につまましては年額二千円、二ついう  
形になつてくると青少年問題協議会に出ると日額七  
百円二ついう矛盾が感じられるのではないかという  
ふうに考へる。もちろんこれが全般的に日額報酬とい  
うのか七百円になつておればいいけれども青少年問題協  
議会の委員は公民館委員、青年学級というものと  
ほとんど関連してありますのでそういうつりあひが

極端だと思ひまして七百円を決定した根拠というものがわからないうわけでございます。特に日額報酬表の中におきましては大體が七百円位になっております。選挙の立会人、開票立会人についても四百円、こういう中で全般的に七百円程度に上っていくという方向で先陣を切つたものか、その二の關係を知りたいと思つてわけでございます。まして、その点についてほかに支障がないかどうかお伺ひいたします。

・福祉事務所長(鶴沢貫寛君)

社会教育委員、その他の委員さんの年額報酬は少ないと思ひます。しかしながら青少年問題協議会の開催日というものは、取たちの考えでは年四回程度ではないかというふうに考えまして他の委員の日

額報酬をみますと大体最低が七百円でございます。  
選挙関係は別でございしますけれども、そういうことで  
七百円という額を払したわけでございします。

議長（黒川佐太郎君）

おはかりいたします。

本案に対する質疑はこれにて打ち切り討論省略  
原案通り可決するに御異議ありませんか、

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（黒川佐太郎君）

異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決され  
ました。

日程才七歳案才五十九号も上程いたします。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（黒川佐太郎君）

御質疑なしと認めます。よって本案に対する質疑はこれにて打ち切り討論省略原案通り可決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長 (黒川佐太郎君)

異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決されました。

日程才八議案才五十一号を上程いたします。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長 (黒川佐太郎君)

御質疑なしと認めます。よって本案はこれにて質疑を打ち切り討論省略原案通り可決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長（黒川佐太郎君）

異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決  
されました。

日程中九議案才五十二号を上昇程いたします。

（一三番議員退席）

・一八番（西村真次君）

この条例の制定に先立ちまして、二の問題は清掃  
事業運営審議会の諮問にかけられたことであ  
りますし、その答申の趣旨を尊重した条例である  
かように考えまして、この点はまことに結構と思  
うわけですが、ただこうした条例ができまし  
てもこれを円滑に実施していくためにはその前提  
として屎処理場の完全操業という二ことが前提  
でなければならぬ、かように考えるわけであ

りますが、先だって課長さんの御説明によって水源が  
出るようになったという御説明がありましたけれども  
も果たして本当にし尿処理場の水不足は解消さ  
れたのかどうか、一日に何トン仕の水が出るのか、  
この点についてお伺いしたいわけであります。

・議長（黒川佐太郎君）

暫時休憩いたします。

午後 二時四十四分

休憩

午後 二時四十五分

再開

・議長（黒川佐太郎君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一八番議員に対する答弁を求めます。

・衛生施設課長（吉田耕一君）

一八番議員さんの御質問にお答え申し上げたいと思います。

確かにオ一点の完全操業という二点を前提として  
考えるわけをございます。

次の水不足解消かどうかという点でございますか、  
おかげさまで水源の方も必要量の確保が確定的で  
ございます。なお私もものしろうこの面だけで  
でき得ませんので、専門的な方たちの調査検討  
もいたしました。場水試験も一週間以上実施して  
あるわけでございまして、確定的な水量でございま  
すか、大体一日千トンの取水が可能だというふう  
に専門家も断言しておりますので、私ももそれ  
を信じて、必要水量の確保は見通しかついた

というふうな考えである次第でございます。

・一八番（西村真次君）

処理場の水不足の問題は私どもにとりまして、かねかね非常に大きな問題でありましたし、等しく頭を痛めてきた問題であります。

ところがしばらくたつとあ

これが当局の方から試掘をやってみたところが非常に出る見込みがある。

ところがしばらくたつとあれはやはり出なかった。

次に井戸を掘ってこれなら大丈夫、しばらくたつと出ないというところが少くとも二、三回今日まで継続されてきておるわけでありまして、私どもはそのた心に一喜一憂を感じておったわけでありまして、ただいまも千トン一日に出るというような見通し



という二とでありますか、もちろん、これは専門家でなければわからないといわれればそれまでありますか、少くとも過去の経過に徴して本当に自信を持つていう二とができるか、この点重ねてお伺いいたします。

・衛生施設課長（吉田耕一君）

お答え申し上げます。千トンの取水が確實であるというふうに考えてお答え申し上げます。

・一八番（西村真次君）

御答弁了解いたします。

さらにもう一点お伺いしたいのは二の使用後の排水、これを嵯来山の上の方に散布してあるようでありますが、最近飽和状態にたつておるといふような仄聞しておるわけですが、今後そういう点で何か支障があるようなことはないか、この点も合わせて

せて何っておきたいと思ひます。

・衛生施設課長（吉田耕一君）

放水の関係でございすか、最初の計画通り現在  
の上方に畑地を造成いたしましたして、畑地かんがいにより  
まして、その放水をしてきておるわけであります。

しかしながら現況は多少の不要水と申しますか、  
かんがいに直接必要ない予備といったしまして、小さ  
なため池も現在借用してそこに放水しておるとい  
うのが現況であるわけですが、最近そのため  
池等も満タンという段階にはまだなっておりません  
のですか、本当のため池でございすので完全設  
備がございせん。そうした点で畑等の被害のない  
程度に放水をお願いして実施しておるという状態  
でございす。今後の見通しでございすか、処理量

の増というものを考えた場合に相当困難ではないか  
という考え方も持つわけでございまして、下流に對し  
ましての放水というようなものの説得を現在続け  
ておるわけでございまして、でき得ますれば畑地かん  
がいに必要な水量を揚げまして、それ以外を自然  
流下によりまして下流に放水、二のような考え方で反  
對されておられます下流の地域に對してお願いを進  
めておるわけでございしますが、一日も早くそうした段  
階へと持つて参りたい、二のようにならざるわけでご  
ざいます。

・一八番（西村真次君）

御説明了といたしますが、二の条例を実施するとい  
うことになる、とある程度清掃業者に對して一つの規  
制を加える、という結果が出てくるわけがあります。

それらに対する監督上の点から申しまして、知理場が完全に操業されるということか、一番望ましいわけであり、知理場が不完全であるということのために清掃業者に対する指導監督の面が足りないようなことがあつてはいかぬではないか、こういうことを心配するわけがあります。

ただいまの御説明通り、円滑な実施ができて、うに御努力をお願いしたいことを要望いたしまして、質問を打ち切ります。

衛生施設課長（吉田耕一君）

御質問途中で申し分けございませんが、原案の字句につきまして訂正申し上げたいと思います。

最後の単位のと二の「一ハリットル」のように出ておりますが、「一ハリットル」の間違ひでございます。

・議長（黒川佐太郎君）

おはかりいたします。ただいま審議中のオ五十二号中  
ミスプリントの訂正を許可するに御異議ありませんか。  
（「異議なし」と呼ぶ者あり）

・議長（黒川佐太郎君）

異議なしと認めます。よって訂正されました。

・二番（君塚喜三君）

この議案につきましては、実際の運営面を重視する  
ものであります。と申しますのは、これまでも清掃料  
掃条例において汲み取り料金は一ハリツトル二十五円  
以内を明記されておりましたにもかかわらずこの点が  
実際の運営に当って守られなかったと二つに二のような  
条例改正となったものであるという二つを承知いたし  
ておるからであります。実際の汲み取り量において

料金を取るものとも妥当な方法であるはずであります。従って私は實際の運営の面に當ってお尋ねしたいと思うのであります。が、算定の基礎となる人員の確定をだれがするの。またどのような方法をもて行なうのか、二の点をまずお尋ねしたいと思うのであります。

・衛生施設課長（吉田耕一君）

お答え申し上げます。人員確定はだれがするかというような御質問でございしますので大体一般家庭につきましての個々の世帯員数を確定いたしますのは一応私も住民登録表というようなものを算定の基礎といたしたい。まずその前に各町内会の青掃組合町内会長というような方々にお願いたしまして、需要者の把握がまだわれわれできておりません。

需要者の把握をかねまして各町内会を単位といたしまして各世帯の人員把握を調査表によりましてお願いいたしましたということでは準備中でございます。

そのようにいたしましたしまして需要者調査というものを実施いたしましたしてびぎ得れば二十八日頃までにこれが通過しますと人員把握をいたしまして地域の設定と相まちまして七月一日から二の方法によつて実施したい。二のように考えるわけでございます。なおつけ加えまして一般家庭以外の部面につきましては量が多いというような観点から当然重量制をもつて実施していくのが正しいというふうな見解から一般家庭以外におきましては重量制を採用して参りたい。

二のように考える次第でございます。

・二二番（君塚喜三君）

ただいまのお答えではまず住民登録を基礎にするのだその上に各町内会長、区長こういういったものに協力を求めて実態の把握をやりたい、こういうことではないんですが、私も町内会長の一人でありまして実際に面についてよくわかる。人員の把握ということかなかなか困難性をきわめておる。例えば容器収集についてもその都度担当者か市役者にやってきて訂正をお願いしておるという実態でし尿処理につきましてもは容器収集はほとんど全世帯をやっておりますのだから汲み取りにつきましても希望者であるわけでありましてそのものか何人あるかは知りませんがそういう状況下において実態を把握するということはどうも町内会長といえども非常に困難性がある。



従つてそこにはいろいろの問題が出てくる。ましてや住民登録を基礎に入れた場合にはそれこそ妙な形が出てくる。私のところを例に取りましても私は鉄道に職しておる關係で社会保険に入らる。家では商売をやつており従業員というものがあつた。住み込みがこつたものは私の準世帯としてお米の配給を受ける關係からこれまでは事務改善以前におさまつては、課税台帳と云ふものがある。それに準拠してありましたから間違ひもなかったわけですが、現在住民登録をやられる關係で準世帯に對しても私の所得に對して従業員に對して税金が国民健康税と云ふものが莫大なものがあつてくる。云々という欠陥が出てきた。従つてまた分離をしまして現在は私の家には三世帯あることとなるわけです。たった一人の従業員のために三

冊の配給通帳を作り分離してある。實際は同居して  
 いる。住民登録の上では三名という二とになります。  
 實際には五名ある。なお通勤者がおりましてなお私の  
 と二とは一般家庭という二とではなく事業所という  
 ことであるわけでありまして。こういうったような例  
 といたしましてもそういう二と二とがいろいろ問題  
 が出てくるのではないか。

ここに二の算定基礎となる人員の確定に問題が  
 出てくるおそれがある。これがくずれますという二の  
 問題が出てくると思うのであります。この点を十分  
 配慮の上でこういう二の改正をなさったのか再度お尋  
 ねいたしたいのであります。

衛生施設課長（吉田耕一君）

お答え申し上げます。確かに人の異動動態という

ようなものは始終行なわれているわけでございまして  
私どもこうした算定基礎を求め、前に一番問題にな  
った点でございます。しかしこうした問題を全部が本当  
に公平に取り扱っていくという問題についてはし尿に限つて  
は相当困難性があるという前提から多少の軽い難、重い  
というような点等につきましてはやむを得ないというふ  
うな見地からでざるだけ御期待にそうように私どもは  
實際面を照り合わして人員把握をしていきたい。このよ  
うに考えます。なおいろいろ問題もございます。例えば  
新世帯におきまして夫婦共かせぎで夕方まで朝出て  
いくというようなものが二人だから百円でも高いというよ  
うな部面もあるわけでありきます。

しかしながらそこに居を構えて世帯を持っていふのだ  
という観点から一番適正であるということとは容量制

でもってはおつて基礎単価で徴収すれば一番いいわけ  
であります。それですんなかなか行なえないというよ  
うな現況からいたしまして多少の今申し上げましたよ  
うな無理もあるのだというふうに考えておるわけでご  
ざいます。ができるだけそうした面についてもわれ  
われでござるだけの調査把握をいたしまして、でき  
るだけ公平な取り扱いに持っていきたいという事で  
ございまして算定基礎に基く料金徴収というよ  
うなものも決して完全に正しいのだというふうには  
扱ひ切れない部面も出てくると思ひます。しかしな  
からそういう部面は事業所か一般世帯かとい  
う判定もむづかしい場合があると思ひますが、で  
ござるだけみなさん方の協力御意見をお伺ひいたし  
まして、こゝした大綱に基いた線でご今後の波み取り

を実施し、料金の徴収もお願いたしたい。このように考  
えるわけであります。

・三番（君塚喜三君）

ただいまの点は善知を要望して了承いたしますが、では事  
業所などにつきましての重量これは量の二とだろーと思  
いますか。これについての料金の測定は業者まかせ  
ということで市はタチしないのか、それとも量につきま  
しては市がタチするの。この点再度お尋ねいたしたい  
と思います。

・衛生施設課長（吉田耕一君）

お答え申し上げます。量の関係の方でございしますが、市  
もタッチいたしまして実施いたしたい。このように考え  
るわけでございます。

この改正条例が議決になりますれば各世帯に二つし

た明細のものを全戸一枚ずつ配布いたしましたしてこうした線で実施するから御協力願いたいといふうに徹底をはかり、あるいはまた広報等によりまして周知いたしたいと思つてあります。

なお事業所に対しましてはその点十分御連絡いたしまして業者加つた量だけが正しいのだということではなくてできるだけこうした事業所等につきましては立ち会つてみていただくような方法を私ども御協力願つてそうして適正な量できめられた料金を支払つていただくような方法に持つていきたい。それでも少しの量で多かつたという部面につきましては一々御連絡を願ひまして、私ども実際にその事業所等に出てまいりまして実状調査をし、適正な部面でないところには注意をいたしましてやつて

いきたい。このように指導して参りたい。このように考える  
次才でございます。

・二五番(荻生田七郎君)

非常に大きな問題でございますが、関係委員会の努  
力に対しては敬意を表すわけであります。

業者は市内に何軒あります。内容、規模、格差はあ  
ると思いますが、市長の認可制になっておると承ってお  
ります。果たして市民の要望に完全にこたえる  
だけの設備を有しておるか。

オ二点、ただいま言及されましたが月二回汲み  
取って価格はこうだということを徹底させる。従来  
の例によりますとどうも業者が業者の意のままに  
なっておったという傾向があるのではあります。こ  
うしてはっきり条例が制定されてこれが執行される

となると市が監督の立場になり監督上の責任を責任を持って市民のためにこの条例を完全に励行せしめるという方法についての監督上の責任、この点についてその責任の明確な所在。

オ三点、それひもなおかつ苦情が出るものと思う。この苦情の処理受付は施設課でやるか、その設置を考えてあるか。

オ四点はたたいま市営でやっております汲み取り範囲と民間との範囲、これを現状で進めるのかあるいは市を拡大させるか、あるいは民営を拡大強化するかと五、先ほどちょっと答弁の中で申されましたが、この条例が制定され執行される以上、地域の設定が必然的に必要になるとおっしゃいますか、地域の設定ということは一業者一地域で設定されるすなわち独占



に通ずるのみ、あまゝは一地域複数の業者を指定して競争せしめてやるのみ、その点につきまして以上五点につきまして御答弁願いたいと思つます。

・衛生施設課長（吉田耕一君）

お答え申し上げます。

才一点の許可業者は市内に四社でございます。二の四社の機械、設備等からみましても市内の現在の処理の要望に二たえられろつというふうに考へてある次でございます。関連いたしまして五点の複数的な競争をとつたということもございましてたので二の責任の所在とも関連いたしますので五点も一諸にお答えいたします。

責任の所在をはつきりするまといふような点となお業者の責任の所在をはつきりさしていきたいといふような

考え方からいろいろあらゆる実状を検討した結果  
 業者に対しまして及び取り地域の設定をすること  
 が一番監督上におきまして適切ではないかとい  
 うようなことからいたしまして関係機関等の諮問  
 もいたしますし答申もいただいたし、なお業者自体  
 の意見も数回の協議会等におきまして意見を把握  
 したわけでございしますが、そうした点等についてこの協力  
 をする、いいだろうというような観点からいたしまして  
 私ども業者におきますと二三の地域の設定を、それが  
 通りました後においてはっきりしていくという考え方で  
 責任の所在をはっきりしていく。こういうことでございま  
 す。オ三点の苦情受付でございしますが、私ども担当  
 課といたしましてその面には苦情でなく、われわれ  
 の監督上の面におきまして、属かない面等をお聞かせ

願うのだという考え方で市民のべからのできれば多くの御注意等を聞かしていただいてそうして一日も早くみなさんへ気持ちのいい汲み取りができるように持つて参りたり。このように考えます次才でございます。

それから現在市にございます汲み取りと民間がございますか、市の汲み取り車につきましては、市の経営いたしまする公衆便所あるいは学校というようなものを中心に現在やつておるわけでございしますが、民間はそれ以外のもので地域を定めましてお願いしたい。このように考える次才でございまして、今後の民間が市営かというような問題につきましては現段階としてまだ関係機関にも諮問を申し上げてございせんが、今後十分そうした機関の御意見等も参酌いたしまして今後どちらにするかという点等につきま

しては研究さしていただきたい。このように考える方  
やでございます。

。二五番（萩生田七郎君）

当局の謙虚な気持ち了承いたしました。どうかそう  
した考え方でこの仕事を進めてもらいたい。

最後に希望条件を申し上げますが、一地域（業  
者に指定する）ような答弁でございしますが、實際  
問題は業者からいえばそっちにいけ、こっちにいけ  
というよりも経済的にも能率的にもそうであっ  
てしかるべしだと思ふ。独占に通ずる。これはしかし  
業者として市民のし尿という二とも考えてもら  
て業者も採算のいくようにしていただく。

公共性のある仕事でありますから今までのような  
批判がいろいろあった。これはこの際お拭きして

だきたいという二とを一大方針でのぞんでいただきた  
たいという二とを強く業者にお願ひし指導し  
監督もおるという基本方針、考え方を確立してそう  
して円満な事業の推進をはかってもらいたい。  
強く希望いたしまして質問を打ち切ります。

○番（辻田実君）

ここで清掃審議会の議決を経てきたと思うので  
ありますが算定基礎になる月別、各月ごとに徴収  
するということになるわけでございしますが、従来通り  
料金は業者によってやられるか、二の点についての関  
係ははっきりしていないようでございしますから、その点  
がはっきりしていないとどっかで見つかりか出てくると  
思うので、二の点聞きたい。

二番目にこれについて清掃審議会については討議さ

れたと思ひますが、部落地域の代表者の意見を聞いたか、二の場合に清掃組合を作つて月ぎめの徴収  
 とういうものの料金を徴収するのは業者が各家  
 庭で徴収するのか、説明の中では組合みたいなもの  
 を作つてそこで取るといふ形が取られるようなこと  
 を伺つたわけなんです。そうすると今でもポリバケ  
 ツをやつて容易でない。いろいろ部落の仕事がふえ  
 てしうがなないといふことをいつてある中でまたこの  
 金を取る。二つという苦情処理でも持ち込まれるとま  
 た役員が悲鳴を上げてしまふ。とういう懸念があ  
 る。とういう懸念はないシステムになつてあるか、その二点  
 についてお伺ひいたします。

・衛生施設課長（吉田耕一君）

お答え申し上げます。最初の月ぎめと申しますか、

これの処置でございしますが、私ども汲み取りをやると  
いうような過醒において月ぎめとか一日ぎめとかいうもの  
のは一般家庭につきましては考えておらないわけでご  
ざいまして、実際にこの条例に付帯いたします規則を  
取り扱い要綱を現在作りつつあるわけでございまして  
大体の原案ができましたら、一つの機関に諮問し  
て七月まで間に合うようにしてみたい。

取り扱い要綱につきまして現在検討を加えておまわ  
けでございしますが、その面におきまして例えば月ぎめ  
とかいう関係でなくて極端に申しますれば七月の一日  
二日とやつて三日に繰出すというような場合でも  
一日現在をおさえまして、実施して参りたいという考  
え方を持っておるわけでございます。従いまして、途中  
の正しい細かい計数に基くというものは困難がある。

というような関係から途中の異動等につきましては、一日の現在の家庭員数をもちまして徴収いたしたい、このように考える次第でございます。

なお二番目の部落、地域の集金云々という二とでございますか、私どもこの集金につぎましては、そうした方々を御手数数わすらわさない。地域を設定しまして、その地域の集金制を取らせて実施して参りたい。なお最初から領収書等につぎまして市と両方の名前を入れた一本化したもので全部の業者にお願ひするという考えであつたわけにございますか、いろいろ各業者におきまして印刷したのが相等数あるというようなことでもございまして、おだにしたいくないという二とでございますので、当分の間、各自の領収書によって書いてもらうというふうに考えまして



大体的線をもちまして市内一本の領収書によりまして  
関係地域の業者をして集金制を取らして参りたい。

このように考える次第でございます。

・一〇番（辻田 実君）

その点につきましては了承いたしました。

もう一つ伺っておきたいのは住民の方の要求から出て  
きたものか、汲み取り業者からそういう家集族の人数  
一般家庭の部に属しますけれどもこういう制度を取  
つてもらいたいということが出てきたか、それとも市の  
方で地域をみて調べてやったのか、その点についでど  
うかから出てきたか、お伺いしたい。これは今まででも二  
人とか三人という家庭では金にならないようですか  
ら取りにこないという苦情があるからそういう苦  
情が出てくるのではないかと思ふので、そういう点に

ついて住居の方から出たものか。と二の発案は簡単に  
 衛生施設課長（吉田耕一君）

今回の改正の算定基礎の出どころでございます。  
 はつきりと民間ですとか市ですとかいうような点は  
 申し上げられません。いろいろ民間からもうしたよ  
 うで、こういうふうにやっておってなかなかいいではないか  
 という御意見も伺いましたし、また市自体といたし  
 ましてもそうした会合につきましてよその状況も聞  
 き、諸関係でございます。機関等の御意見もこの  
 線はいいだろうというような御意見もございまし  
 たので、こうした観点に踏み切ったわけでもございます。

六番（秋山六三郎君）

辻田議員の質問に関連するものであります。先ほ  
 どからいろいろ御説明を伺っており、中にもまだ一

わからない点があります。それは例えばある農家がある時期には自家で使つてゐるところが時期によつて家で必要なくなるので汲み取ってもらいたいというような月ぎめという二とが行なわれかたのような家庭が多少あるように考えるのでありますが、そういう場合に月ぎめでなければ汲み取ってもらえないのか、この点御答弁願いたいと思います。

・衛生施設課長（吉田耕一君）

言葉がどうかわかりませんが、月ぎめというような関係で一ヵ月について幾らというふうに規定しておりますが、今の御質問の肥料として自分で処理できるといふときにどうするのかわかりという御質問でございますが、そういう場合に一日現在をもちまして把握いたします関係から一日にならない前に来月にやめるといふような御連

絡をいただければよろしいかと思っております。

二三番（中村省吉君）

大分わかりましたが、一点だけお伺いいたします。

二回を標準という二とになっております。この点はつきりしない標準でございますから一回で間に合つていふと思つて一回しか回つて二ないときに市はどうするか、二回を最低限度として回つる計画を立てておるのか、月二回ならば何とか間に合ふけれども一回になつた月があつた場合に困るという家庭も出てくると思つて。容器を大きくすれば問題はなけれどもそれも大へんですが、その点どうなつてゐるか。

衛生施設課長（吉田耕一君）

月二回を標準としたという根拠でございますが大分月に二回を原則としてやつていただくというふうな

業者にも申し上げてあるわけでございます。しかし万  
一  
そういうことがでぎ得なかった場合というものを考え  
まして、標準という言葉が適切かどうかは別問題  
として、言葉を二に使ったわけでございます。車の  
事故等によりまして予定通りいかないということも  
ございまして、私ども指導といたしましてはあくまで  
も月二回を取っていただくことを原則に指導して  
参りたい。このように考えておる次第でございます。

議長（黒川佐太郎君）

おはかりいたします。本案に対する原則質疑はこ  
れにて打ち切り討論省略原案通り可決するに  
御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（黒川佐太郎君）

異議なしと認められます。よって本案は原案通り決しました。

(一三番議員着席)

議長(黒川佐太郎君)

日程ヲ十議案ヲ五十三号ニ上程いたします。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)

御質疑なしと認めます。よって本案に対する質疑はこれにて打ち切り討論省略原案通り可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)

異議なしと認めます。よって本案は原案通り決しました。

暫時休憩いたします。

午後 二時二十八分

休憩

午後 二時五十五分

再開

議長（黒川佐太郎君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第十一歳案、五十四号を議題といたします。

一八番（西村真次君）

歳入のうち繰り越し金六百十三万七千円が計上されておりますが、これは関する先般の財政課長さんの御説明の中で三十九年度の出納閉鎖をした結果三千何百万、確か三千三百万とおっしゃったと思います。か黒字が出たという御説明があったように記憶して

おりますが、そうしますとこの繰り越し金合わせ  
まして三千九百万円の黒字があるように理解して  
よろしいのか、その点とそれから正確な数字をお知  
らせいただきたいと思います。

・財政課長（長谷川広治君）

お答え申し上げます。現在精算中でございますの  
で、正確な数字はまだちょっと申し上げられないんで  
すが、大体のとこは繰り越しにおきまして三千八百万円  
の繰り越しというところでございます。

そのうち四中の屋内体育館の継続繰り越しが三  
百万六十万ばかりございます。これを差し引きま  
して、繰り越しの財源として三千三百万という  
ことになります。その中へこの歳入の中に組み  
入れてございます。消防関係の災害の補償費百万



円も入っておりますので純財源と申しますか、私ども  
実際として三千二百万円程度というふうに考えます。  
このうち昨年度の繰り越し金が二千四百万円ござい  
ますのでそれを引いた約八百万円位が黒字と申しま  
すか、純繰り越し額ということに相なるわけでござい  
ます。

・一八番（西村真次君）

わかりましたが、この黒字というものは昨年四月事  
務改善が実施されてまして同時に財政課の新設  
をみた、それからわずか一年位の間に相当の黒字を  
出してゐるという二とにつきましては大へん感謝も  
いたし、敬意を表してゐる次第でございしますが、この  
黒字が需用費を節約する二とによって生じたという  
二とであれば結構ですが、これが行なわれるはずで

あった施策が行なわれなかったために黒字が発生したというようなことではなからうかという点が心配されるわけですが、この点御説明いただきたいと思います。

・財政課長（長谷川玄治君）

大体私どもの計算の方法では歳入におきまして予算計上額よりも約一千万円増額収入されており、ます。それがおもな黒字の原因と申しますか、というふう考えておりました。事業未執行によつての黒字ということではない。一部ございしますが、それは三百万程度のものではないかと申します。

・一八番（西村真次君）

御説明了承いたしました。

とにかくこういった黒字が出ておるといふことは

私もとしては非常に耳よりな話でうれしいわけでもあります。ところで最近市内の小学校におきまして需用費が足りないということにつきまして多少の問題が生じておったということは当局としても聞き及びてあるうと思ひますが、その足りない需用費を二、三という足りない面に回わしてやる意思はないか、市長さんにお伺ひいたします。

市長（本間 譲君）

お答え申し上げます。これは北条小學校のことでございまして、そのことについては教育委員会の方にも私は申し上げたんですが、需用費が足りないというようなことは北条小學校ばかりでない面があるのではないかと思ひまして補正予算で組むとかいう場合には全部の學校をよく検討してどう

しても教育上これだけのものであればならぬ  
 いものであるならば議会に相談してやる。こ  
 うふうには考えておりまして、北条だけをやる  
 ということではなくて、いずれにしても教育委員  
 会でよく調査して全部の学校を一律に調査  
 する必要がある。そういうふうにお願ひしてあ  
 りまして、ございます。どうしても必要だとい  
 うことになればやはり考えなくてはいけないとい  
 ふうには考えております。

一八番（西村真次君）

まことに結構な御答弁をいただきまして、安心  
 いたす次第でございます。もう一つこれに関  
 連して教育委員会に申し上げておきたいと思  
 うのでありますが、この需用費というもの

かなかなか限度の算定という二とは非常にむずかしい問題でありまして、どこまでが必要なものであつてという二との算定が非常に困難じゃないかと思うのでありますが、その点十分委員会として検討されました。市長さんもただいまの御答弁に申されておるようなわけでござりますから、どうしても必要だという確信ができましたら市長さんにお願ひしていただきたい、二のように要望いたしましたして質問を打ち切ります。

三番（菊井敏博君）

地方債に關連してお伺ひいたします。

南房州有料道路の館山市が五百万円の債券を引ぎ受けて利子補給をするという二とを市長さんに伺ったのでありますか、それが今回館山市が

商工會議所を通じてなぜ他の町村分まで名を  
て一千万円を県に返さなければならなかったか、  
これを。

。商工観光課長（↓沢正治君）

御質問の点でございしますが、これは有料道路  
が着工される昨年の三月頃に関係市町で県  
との協議会が持たれたわけでございましてその際  
にいろいろ県の特別会計で全額援護債を予定  
しております。県公社が総額を引き受けていく  
という形の起債でございしますが、これを引き受  
けるという形でその相談の会議があったというで  
ございしますが、その席上、有料道路の路線とい  
うのが非常に複雑でございまして全線新線  
でないという形の中でした場合に地元の関

係市及び町の地元住民が路線を利用するに際し  
ての使用料の減免処置のような形に当然考えら  
れるわけでございまして、そうした点を考慮して  
やはり地元の市や町で一部負担をしてもらった  
方が望みとしても都合がいいというような考え方  
もあつたようでございます。そこで三十九年度分と  
いたしまして一市四町で五百万円、四十年年度分  
といたしまして五百万円、その割り振りについて  
は二分の一額を館山市でさらにあとの残りの  
半額につきましては四町で援護債を引き受けて  
いただきたいというところで、そのように話し合いが  
ついたというふうに伺つてあるわけですが、これを地  
方公共団体であるところの市や町が直接しよつて  
いくという形が地方財政上法的に疑義があると

いうことで館山観光協会の名において館山市が責任を持って統轄して窓口一本にして払い入んでもらいたい。その場合の処置として千葉銀行からの融資については県の方から話しを付けておくからというのであったそうでございす。それもたまたま今年の三月の始めに至りまして、そのような話し合いがあったとわれわれくわしく聞しております。で、館山観光協会宛に借り入れ申し込みが役所に届きまして、それが観光協会長であるというので私どもの課に回送されたわけでもございます。そういうような形で参っていろいろ伺ってみますとそういうことであったというのでその話し合いの趣旨に従って借り入れ手続きに入ったわけでもございますが、



もちろん関係市町という話し合いの上で進めてきたわけでございますが、いよいよ借り入れする段階になりますと公的に人格のない団体にはどうしても貸せないということかはつきりして参りましてそれでやむを得ず商工会議所にお願ひいたしまして一市四町分の三十九年度分五百万円という形でお願ひしたわけでございます。簡単ですが、そういう経緯でございます。

・一三番（菊井敏博君）

いろいろな事情でやったことはわかるんですが、なぜその分を館山市が借りなければならぬか、館山市が五百万引き受けた、五百万借りればいよいよその分をなぜ五百万借りてやらなければならぬか、観光協会で申し込んで断われた。観光協会は

だらしない。なぜもう少ししっかりとした観光協会にできないか。

・商工観光課長（小沢正治君）

オ一点でございしますが、人の分を借りるということではなく県からそれぞれの配分に応じた額を返すのであればらに送らないでくれ、一本にまとめてくれという要請に基いたために町では別々の意向があったんですか、県の要求が一本にまとめて五百万作ってくれということでした。そうだったわけではあります。これはもちろん町の分を商工会議所や市が結果的に負担するわけではございません。町のそれぞれ配分額に応じて責任を持って償還する事になるわけではあります。

観光協会の法人格の問題でございしますが、これ

は全国的に市町村の観光協会というのはいくつも登録を  
お出し、法人格を持っておられるというのはいくつもあ  
り。千葉県下にも銚子市一カ所しかありません。観光協  
会を登録するという二とは手続きも煩瑣でございまして  
通産大臣の許可がいる。許可を取ったあかつきに通産  
省の監督下に入りまして、必要以上煩瑣な事務がかか  
ってくるという二とで県の観光協会としても今度の関  
係で千葉銀の融資を受けるために登録するという話が出  
た。

最初はあくまでも観光協会という二ともありません  
が、県の指導も得ましてこれをあきらめまして、商工  
会議所にお願ひしたわけでございます。

三番(菊井敏博君)

便宜上五百萬一諸にしてくれというから商工会議所を通して借りてもらった。そうするとよその町村で二百五十万集めてもらって館山市に持つてきて払うわけにはいきませんか。

。商工観光課長（小沢正治君）

その場合、町側の希望が自分の町でそういう形を取るといふことは予算支出上困難になりますし、額としても千葉銀で一括融資を受けられるものをわざわざそういう形を取りたくないという希望があったわけです。

・三番（菊井敏博君）

館山市が頼まれたからやったわけでしょうが、近隣の町村のお付き合いで一諸に借りてやだというならわかる。そうでなければよその町村

で五百万、館山市で五百万持てばいいものを商工会  
議所が一千万借りたいという筋の通らないことを  
する必要はないと思うが。

・商工観光課長（小沢正治君）

三十九年度分として五百万ということで年度別に  
して五百万円の半分を館山市、百万円千倉あと三  
町で責任を持つ、それをてんでばらばらの名義で  
県に送られては困る。館山市が音頭を取って一括  
して納入してもらいたいということが県の要請でご  
ざいます。

その次の問題で町が現金で館山市に持ってくれば  
いいではないかということですが、町の財政  
規模はさらに小さくなるし現金支出をやらずに一  
括して千葉銀で出せるというものを表しもの方

でもぜひそうようにやつてもらいたいという県と町  
側の二つの方々からの話し合いの中でそういう形  
になったわけでございます。

・三番（菊井敏博君）

納得さしてくれればいいんだ。五百万円は一本にし  
て送ればいいわけですね、あっちからもこっちからも五  
十、百万という二とではいけないからというお話し  
でしょう。

今年度五百万、来年度五百万借りるわけです。今  
年は館山市が五百万持つから来年は四町で持つそ  
くれればいい。

南房州の中バであるから、近隣の町村に頼まれた  
からお付き合いでやるといふのなら話し合いでや  
たならわかる。

商工會議所がよその町村の金を借りて、館山市が分配してお金を返す必要はないと思うか、どうですか。

・商工観光課長（小沢正治君）

五百万円について金額を市が責任を持つわけではない。その中の二百五十万分について持つ、

どういう形になるかといわれていますと五百万一市四町分まとめて市の商工會議所の窓口で県の起債を引ぎ受ける。

そうすると県から七分五厘の利子について十一カ年計画で償還していく。

・三番（菊井敏博君）

それはわかる。借りたものを県が十年間で責任を持つて返済する。商工會議所が名前を貸しただけだ。私かいうのはそうではない。もしよその引ぎ受

けるものをなぜ館山市が商工会議所を通じて借りてやらなければならぬのか。

・助役（小出武男君）

課長から内容的に申し上げましたが、ただいま三番議員さんのお話のように有料道路の問題が館山市を中心にして発足したというては諸弊があるかもしれませんが、館山市を中心にして推進したという立場上、館山市が幹事役となつてやるという二とで出發した関係上、四町分る館山市が窓口となつてやるという二とです。

・一三番（菊井敏博君）

了解、学校の教育関係、需用費についてお伺いいたします。

先ほども三千万以上の金が残ったということを聞いた。



現在二市の電話一本ですね。館山市の名義になって  
ある。館山市の名義になっていながらこれをPTAが  
負担してある。

この点についてはいかがですか、今度本来の姿にな  
おしていくということができるかできないか。

・教育長(押本禧逸君) ただ今電話の問題でございますが、昔  
のことを申し上げますと、私が校長をやっていた時代にPTAと  
話し合いで電話が一本しかなくて、ようがないということにな  
ったんですが、その後、本市の教育委員会から毎年うよう  
うに市で架設しようにしていたきたいということに進んでき  
たわけでございますが、そのままになっているわけでございます。  
その後、北条小学校でも多分一本ふえていると思いますし、  
館山附小学校も近くそういうようなことを聞いているわけ  
でございますが、今後何とか市で予算化ができるように

かりますよば、そういう方向に進んでいきたいと思っております。今、ただちにというようなわけにいかないと思っておりますので、四十一年度、予算等には是非、そういうような方向にいきたいとは思っているわけでございます。

・一三番(菊井敏博君) 電話より基本料金は、千四百円ですね。一年間の予算にしても一万幾らだ。こゝ、予算を取るうがむずかしいか。館山市長田村さん、名前になっていると思ひますが、館山市のもうと、同じだ。

わすかなものをPTAから払わせるということとは、大館山市として、はすかしい。一万幾ら、予算を取るうがそんなにむずかしいか教えていただきたい。

・二九番(鈴木市蔵君) ただいま、教育長さんの答弁なんですが、あなたが校長をやっておられるときの電話であるという答弁があつた。市当局、また教育長がその予算に対し

して、入ってよろしというふうな決着をあるおがないでPTAが電話をてんで入って最後について市が尻ぬぐい。それでよいならば、船形もあるいはあります。そういうことは、おそらく教育委員会にかけてしまったものに対して加入するくらいで知らず、やたあとでやるということとは当然でできない。水は水、火は火、今後見解を統一してやっていたできない。さうさう答弁は訂正していただきたい。

・教育長(押本禧逸君) 私が申し上げたのは、新しく四十一年度予算のときに委員会等の議を経まして、そうして、新しく議会に出すようにしたいという気持ちを持っているということをお願いいたします。

・二九番(鈴木市蔵君) 新しく電話を架設する。そんなら問題はない。今まであったものを予算化するということは、私はできな<sup>い</sup>と思う。答弁を訂正してもらいたい。

一三番(菊井敏博君) 先ほど私が質問したことは、現在館山市の財産になっておる。館山市長田村さん、名前になっているわけです。それを財産は自分のもので勘定をおまえ払えということとは筋が通るか通らないか。

あとから予算措置をしてくれということではない。

財産は館山市の名前になっている。それをPTAに払わしてはすかしくないのか。一万五千円の予算を取るのにそんなにむずかしいのか。そう返答がない。

教育長(押本禮逸君) 御質問の要旨は私もよくわかるわけでございますが、なるべく早い機会に市庁所有になつてゐるものでございまして、是非電話や架設費も市で予算化する方向に持っていかなければならないと思つております。

一三番(菊井敏博君) 市長さんをお願いします。教育長

さん一万五千円の予算を取るのに大へんらいんですが、田村さんの名前になってゐる。

本間譲の名前にしてもらつてPTAの負担をなくしてもらいたいと思いますが、いかがですか。

市長(本間譲君)今はじめて聞きました。全然わからない。それはやはり市で持つべきではないかと思ひます。

・二五番(萩生田七郎君)御質問いたしたい。あなたが校長時代PTAの名前で申し込むならいいんですが、市長さん名前で申し込んで取れた。なぜ寄付申し込みをしないか。そういう所有権の確認していかう。當時市長さん許可を得たならば、市有物件として寄付して当然市が払わなければならぬ。それをやかなかつた。ということば、あなたの責任だ。

責任を追求するわけではないが、そういう前例を作る

いうことはない。二九番議員の質問はそういうものだ。

一三番議員の趣旨は市有物件であれば当然市が支出すべきだと。あいまいなことで、ほつておいてはいけないうことなんです。その点についての御答弁をお願いいたします。

議長(黒川佐太郎君) 暫時休憩いたします。

午後 三時三十分 休憩

午後 三時五十七分 再開

議長(黒川佐太郎君) 休憩前に引き続き会議を開きます。  
教育長(押本禧逸君) ただ今、菊井議員からの御質問でございますが、まことにごもつともな御質問でございまして、今後この処理につきましては、市の教育委員会と相はかり

十分検討いたしまして、善処いたしたいと思います。

なお、鈴木議員さんのことにつきましても、同様に委員会には  
かりまして、なお、電話の架設につきましても、学級数・生徒教  
等も十分検討して善処したいと思えます。

・三番(菊井敏博君)もう一つ、お聞きたいと思えます。鈴木  
議員さんの方から、話があったんですが、市、名前を借りて  
あと、尻ぬぐいは困るというような、話がございます。が、現在  
一昨年から、非常に大騒ぎをしまして、作りまいたプールの問  
題、二中・神余・豊房もできると聞きます。これは教  
育上、必要だということで作ったわけです。この運営費も  
PTAが払っている。こういう点も不合理だと思える。これを  
今後、こういうふうに持っていくか、この際ですから聞かす  
もらいたい。

・教育長(押本禧逸君)プールの問題も教育上必要ということ

でございすが、こゝらの維持費等につきましても、現在校舎そのものを次々に改築していかねければならない問題等もありますので、プールの維持費等につきましても、よく委員会で協議をいたしまして、ある線まで今後出ないと思っております。

・二五番(萩生田七郎君) 私の質問に対して、教育長から明確な答弁がないようでございますが、私の質問の要旨、これは決して当局をせめるわけではない。要するに市長の名前で市有物件として登録されておいて、プライベイトな団体が維持費を負担してある、変則的な現状を認めるならば、二九番議員というごとく、既成事実を作り上げて、維持費を市にお願いするということはいかぬ。従って私の質問せんとするところは、緊急度の高いところ。二中のごときは、実際、二本電話は必要である。



そういう必要性の高いところは、この際、勇断をもって市に所有権を移譲せしめて、市費で負担すべし。ただ今後漫然と市長の名前で既成事実として市に強要することがないような明確な線を描いてもらいたい。これを私は希望するが故にあなたに明確な答弁を求めたわけであります。その点、明確な御答弁をお願ひいたします。

・教育長(押本禧逸君) ただ今、御質問に御答弁申し上げたいと思ひますが、架設の当時は、学校に電話を架設することは、ト、Aということではございませんので、市長さんの名前でなければ、できないので、市長さん、名前を借りてというようなことでは、なっておりませんので、市長さん、お名前前で架設許可を得て、架設をいたし、まいるので、寄付という手続きを取らずに、現在まで、きていたわけですが、早速、これは、<sup>それ</sup>の手続きを取るようになり、と思ひます。

・一四番(志村信作君)土木費、街路事業費でござい  
ますが、昭和橋かけかえ工事費が計上されておりますが、幅員  
延長はどう位でございますか、まず、この点、伺います。

・土木課長(新井重助君)お答えいたします。長さ、五十二  
メートル、六十幅が六メートルでございす。

・一四番(志村信作君)幅、六メートルとおっしゃるうは、道路  
幅も六メートルになるわけでございませうか。

・土木課長(新井重助君)お答え申し上げます。道路が六  
メートル、五十でございす。橋幅が六メートルでござい  
ます。

・一四番(志村信作君)昭和橋は性格から申しまして、産業  
道路である。これは、将来、重要な道路になることは  
明らかになつておりますが、六メートル、五十という幅員  
は、もうすでに少なく感じられますが、これに対する幅

員を将来広くするとかいう計画はございますかどうか。

・土木課長(新井重助君)現在六メートル五十でございますが、御承知のとおり入口が狭いのでございます。あいを六メートル五十に広げていつて一応完成させたいと思っております。

将来はということになると、道幅は広い方がもちろんよろしいんですが、交通量の緩和ということでございますが、今後交通量の増えまいな場合、人口の増加、増場合に考えて現在はいわで十分という考えでございます。

・二五番(荻生田七郎君)衛生施設課長にお伺いしたい。一尿処理費が百十六万計上されておる。

配管の費用でありまするが、一尿処理費は御承知のとおり、泥沼予算である。こゝ予算化によりましてフル運搬ができるという見通しがついた。結構だと思う。従って賛成でありまするが、こゝ以上施設費としては現在のところ

ろ計上する必要がないと思うんですけども。その必要ありや否や。

第二点は、尿処理場の運営によって非常に特殊なハエが発生する。それが風によって従業員、宿舍に迫りこんで白い壁が真っ黒になって、もうという事実があるか。あるとすれば、速やかに改善せねばならぬと思うがこの点について。

衛生施設課長(吉田耕一君) 第一点でございますが、先ほど申しますように、現在処理水の措置というもののにつきましては、畑地かんがい利用されない以外、処理水をできれば河川を利用いたしまして、下流に放流したいというふうな考え方を持っておるわけでございまして、下流との折衝をしておるわけでございますが、まだはつきりとした線の決定をみていないという現況でございますので、今後どうような

ふうになりますか。現在考えている方向へと持って参りたいわけですが、そういう場合、ある一定線まで配管をして下流への放水というような面も一なくてはいけないんではないかという考えを持ってゐるわけですが、最悪の場合には今後、その程度の予算をお願いしなければならぬではないかと思ひますが、一か一かながら科学的にも、法的にも、希薄水まですれば、障害はないということではあります。水が十分確保できまゝで何とか、そのまま放流できるように下流との折衝をしていきたい。このように考えております。

二点の八エの発生でござりますが、時期によりまして確かなぞうたときがあったわけですが、いろいろ殺虫剤等もいろいろ使ってみまして、大体現在では防除ができるというふうに考えてゐる次第でござります。

一番(吉田勇治郎君)二つお伺いいたします。まず、都市計画  
総務費の中に給料三十万のつてあるんですが、予算編成  
をしてからまだ日が浅いのでありますが、どういうわけか、それ  
から、大きい補正予算で昭和橋は、やむを得ないといいたいま  
しても、都市下水路費で四百万円<sup>余</sup>、大きい追加予算を  
計上してありますが、こゝはいかような理由でここに計  
上されたか、この理由を御説明願いたい。

土木課長(新井重助君)お答えいたします。三十六万六千  
円減らしたという理由は都市下水路が、こゝたび国庫  
補助の対象になりまして、二カ年計画で計画的に国庫  
補助の対象になったので、今年度で全部残ったとこ  
ろ、二百八十三メートルございますが、それを全線本年度  
完了したいということで、その中に工事費の中に事務  
費を六%程度見込む規定になっております。

事業費総額で六百六十万ばかりでございまして、その六%  
三十九万四千余を下水路の方に持つてきまして三分の一だけ  
が対象になるのでやっただけでございまして。

下水路のどういうわけで減らしたかということでございます。  
国庫補助の対象がきまりましたので、早急に仕事をや  
りたい。やる場所は、鉄道用地、交渉いたしてあります。が、  
六月三十日までには工事を着工しなければ、この要求は取  
り消しだという条文がついておりますので、これを更正し  
たわけでございます。

二年計画で二百四十万ばかり持つておりましたので、それ  
をいまして今回更正したわけでありまして。

一番(吉田勇治郎君)当初おなむわわかつていた問題で  
ございまして、かきようの解釈してよろしいございまして、か  
四百三十二万四千の追加に対しては、当初予算では

計画になつてゐたと解釈してよろしいか。

土木課長(新井重助君) 私どもなるべく国庫補助をもら  
ゐて、早く完成したいということとで昨年来都市  
計画課の方に申し込んでございまして、なかなか、そう  
速に入らないで三十九年度に入るといふような予報もござ  
いまして、けれども、年度末になりまして、見込めがなかつた。  
予算編成当時におきましては、若干四十年度に入る  
ではないかという予想はございまして、たが、審議会の方も通  
つておりませんので、一応市費だけでやていくということと  
で、やつておつたわけでございます。

一番(吉田勇治郎君) 端的にいうならば、いろいろ制度上、こ  
ういつたことは、あうまい、わかつたと思ふ。

できる限り、当初予算に、もういつたことは、明らかにして  
いただくことが、明朗な行政であり、方ではなかつたかと信



ずるものであります。

なお、国家予算、県補助金をもらつてやるということはやろいゝであります。やるべきことは当然やらなければならぬという観点に立つたならば、当初予算にも組める問題だと思つてあります。

こゝうな大きな更正をみなければならぬという理由は今の説明で大体察せられますが、あまり数字が大きいのので我々としても疑問を持つものでございます。一応説明をいたしますが、補助金がないところは、どうしても仕事ができないのだという差入観でなくて、仕事は市民がためやらなければならぬという覚悟にかえていただきたいと思つてあります。どうか考えを切りかえていただきたいと思ひます。かように要望いたしまして、私質問を打ち切ります。

ニニ番（君塚喜三君）ニ款総務費の中十節交際費、  
 ハリンハムへの親善使節のため百六万という交際  
 費としておさめております。

こゝに関連いたしましてお尋ねいたしたのでございま  
 るが、市長さんのお話の中でハリンハムに参りまして学  
 生、先生など、交流をはかるために協定を文書をもつ  
 て交換してくるのだということをおっしゃっておられます。  
 生活水準の大きく異つた米國というところらに迎え入  
 るということについて、市の負担というもうがある程度、覚  
 悟さなければならぬという問題も起り得ると思われ  
 るのでありますが、こういうものを文書をもつて交換す  
 るからには、この協定文を市会に出して、その議決の上  
 においてなさるうが、当然ではないかと思つておりますが、  
 こういった処置がなさないのであります。この点に対する

お考えをお伺いしたい。

市長(本間譲君) 厳格にいったらそうなるかもしれませんが、私の方では軽い気持ちで話し合いではいけないから、文書を取りかわして経費はかけないのが本来でございます。

相手がありますから向こうがどうおっしゃるかわかりませんが、そういう気持ちでいきまゝて市会や同意を得るものは同意を得なければ有効ではありませんから、そういういた種類でなく話し合いのことを書いて交換したらどうか。こう思う。経費を伴わないようなことでやっていきたい。

ニニ番(君塚喜三君) 市長さんの御答弁では、当市に対する負担がからないようなものでということをおっしゃいますが、交流ということになれば、負担問題が起きるかと思う。そこでただいま申し上げるように米国人と日本人とでは生活レベルが違ふ。

私は仮りに協定なされた場合に向こうからくる人に対して負担を持つのだということをはかるとするならばこちらの方として大きな負担持ち出しという結果になりますので、もしそういつたようなものだとするならば、この際議決の上においてゐていただいた方がいゝんではないか、このように考えたわけでございます。

市長さんのおっしゃった軽い気持ちでそういつたものでないということであるならば了解いたします。

議長(黒川佐太郎君) おはかりいたします。本案に対する質疑はこゝにて打ち切り、討論省略、原案通り可決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君) 異議なしと認めます。よつて本案は原案通り決しました。

おはかりいたします。ただ今、三沢節議員ほか七議員君から神繩、祖國復歸に関する決議案が提出されました。この際、これを日程に追加し、ただちに議題といたしたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君) 異議なしと認めます。よつて日程は追加されました。

神繩、祖國復歸に関する決議案が提出されました。この際、これを日程に追加し、ただちに議題といたしたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君) 異議なしと認めます。よつて日程は追加されました。

神繩、祖國復歸に関する決議案を議題といたします。

原案を配付いたします。

(原案配付)

議長(黒川佐太郎君) 配付漏れはありませんか。——なしと認めます。

朗読いただきます。

(書記朗読)

三三番(三沢節君) 本件につきまして御説明申し上げたいと思います。

去る四月沖縄那覇市議長より本市議会に対して祖国復帰に関する決議の要請があったのであります。

こゝにとつきまゝでは先ほど全員協議会で御相談申し上げたとおりでございますが、過去におきましては我々の同胞であり、沖縄住民の被害に対して何らかう形で協力できなばと、考えまして議会運営協議会を代表いたしま

して提案いたした次第でございます。

よろしく満場の御賛成を得たくお願い申し上げます。  
なお、本決議案に御賛同いただきまいたあかつきには、沖  
縄住民の志気を鼓舞する音へ味におきまいて、那覇  
市議長宛に本決議を送付いたく思いますので、こ  
点も重ねて申し上げます。(拍手)

議長(黒川佐太郎君) 本案に対する御質疑ございませんか。  
御質疑なしと認めます。

本案はこれにて質疑を打ち切り討論省略満場一致をも  
つて可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君) 異議なしと認めます。よって本案  
は決まりました。

本日の会議はこれにて散会いたします。

次会は明二十二日午前十時開会といたいます。  
その議事は入市競輪組合議會の議員の選挙といた  
います。

午後四時三十分 散会



本日の会議に付いた事件

一議案第五十五号

一議案第四十四号乃至第五十四号

一沖縄、祖国復帰に関する決議

出席議員

吉田 勇治郎

鈴木 正一郎

小柴 孝

館石 伝蔵

田中 祿郎

秋山 大三郎

田村 源治郎

望月 照正

辻 田 実

石井 正

黒川 佐太郎

菊井 敏博

志村 信作

小沢 恵太郎

関 武夫

西村 真次

藤田 好治

保科 忠夫

江田 徳太郎

君塚 喜三

中村 省吾

島野 茂樹郎

萩生田 七郎

鈴木 孝

嶋田 繁

山田 教子

鈴木 市蔵

安藤 龜吉

安沢 徳順

三沢 節

高橋 文治

山本 昇

松本 藤太郎

山口 康

次席議員

安西 益男

出席説明者

一 第一日目と同じ

出席事務局取員

一 第一日目と同じ

